

あ と が き

第 12 回 海外環境事情調査団 副団長

河窪 義男

調査団の実行委員会では当初、訪問先として、アルゼンチン（ISWA 開催）、ハンガリー（旧東欧の環境調査）、米国（ディスプレイの普及）の 3 地域を候補とする中で、調査テーマ、日程等を比較し、技術委員会主催では初めての米国としました。

今回の実行委員会で最も苦勞したのは、参加費用のアップでした。調査団の見積もりをしたときは 18 名以上の条件でしたが、実際の参加者は 10 名となり、募集時よりかなりの増額となることが判明し、旅行代理店との交渉で添乗員をやめ、バスの手配もタクシーで行けるところはタクシーに変える等の変更により、最終的に調査団の参加費が決定したのは結団式の前日でした。

1 番最初の訪問先であるニュージャージー州の下水処理場では、当初の予定先のニューヨーク市の下水処理場がテロ対策のため見学は中止となり、成田出発の前日に同州のノンポイント汚染（日本ではまだ規制されていない。）の管理事務所の訪問に変更となりました。ニューヨークのホテルに着くと私の部屋で担当者とノンポイントの汚染でなにを討議するか準備を済ませ、翌朝バスにのり目的地近くで、通訳の人とバスの運転手が行き先のことで言い合いが始まりました。周りは工場地帯で州の事務所がある雰囲気ではなく、どうみても下水処理場でした。結果は運転手のみが訪問先の再々変更を知っていて、下水処理場の施設見学に変更となっていました。私たちは討議が始まるまで、何を話すべきか迷いましたが、勝手に知った下水処理場の見学ということで無事終了しました。

ニューヨークではテロ防止対策のため上下水道施設と原子力発電所は外部の人の出入りを制限しているとのことでした。又、ワシントンの空港では、ほとんど全員が靴を脱がされ、ベルトをはずして金属探知器のステッキを当てられ、ボディチェックを受けるという物々しさでした。最初は笑っていた団員も少し緊張しましたがなんとかパスしました。

以上に示す通り様々な出来事はありませんでしたが、調査団長のかけ声のもと 10 人が協力し合い、添乗員なしと言う状況を全員が理解したおかげで無事に全行程を乗り切りました。

米国の食事は余り良くないと聞いていましたが、ニューヨークのグランドセントラルにあるマイケルジョーダンの経営する店のステーキとオイスターバーの牡蠣はとても美味でした。

ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルスとそれぞれアメリカを代表する都市を訪問し、街の雰囲気はそれぞれ異なり、風土、様々な人種、生活、気温と時差の違いが体得できました。

特に、ワシントンからロサンゼルスまでの 5 時間半の機上からみた景色の最初の 3 時間近くは一面の畑作地で、後ほど WEB で調べたところ、トウモロコシ、綿花、小麦の畑のようです。アメリカが農業王国でもあることを改めて知らされ、アメリカの大きさやふところの深さが強く印象に残る旅でした。